

## 琉球大学医学部保健学科生体検査学講座形態病理学分野

田邊 恭佳\*

### I. 保健学科の紹介

琉球大学は、まだアメリカ占領下であった1950年に開学、当初は英語学部、教育学部、社会科学部、理学部、農学部及び応用学芸学部の6学部でした。その後、幾度となく改組を行い、現在の医学部保健学科の前身である保健学部が設置されたのは1968年で、開学から18年後のことです。本学科の教育研究上の目標は、「保健学に関する専門の学術を修得し、生命を尊重する思いやりを持った、地域社会並びに国際社会に貢献する保健医療専門職者を育成する。」であり、保健学部設置から現在に至る43年間に多くの人材を育成してきました。これまで多くの卒業生が医療機関で専門職として従事し、さらに研究者、指導者として本学や県内外で活躍しています。

### II. 検査技術学コースの紹介

本学の医学部保健学科はコース制を採用しており、看護学コースと検査技術学コースがあります。毎年、約60名の学生が入学しますが、2年次の後期にどちらのコースを選択するか決めなければなりません。年度によって若干差がありますが、20名前後の学生が検査技術学コースに進みます。

3年次になると、検査技術学コースを選んだ学生は検査技師になるためより専門的で、実践的な教科を履修することになります。病院実習は3年次に夏2週間、春2週間、4年次の夏に4週間行い、医療従事者として必要な知識と技術の習得を

目指しています。

またこのコースの特徴として、卒業研究期間が長いことが挙げられます。3年次前期から始まり、4年次の12月に研究発表会と卒業研究論文の提出を行います。これは検査技師養成施設の中では比較的長いほうだと思います。

しかし、学生たちは講義や実習、卒業研究で忙しいなかでも、クラブ活動や年中行事としての1年次、3年次研修、学園祭への参加などかなり充実した日々を送っているようです。

4年次になると検査技術学コースでは国家試験対策として、6月から試験直前の2月まで毎月1回、模擬試験を実施しており、合格率の向上に努めています。

### III. 形態病理学研究室の紹介

私たちの研究室は、平成21年度に新しい教授を迎え今年で3年目に入ります。最初はたった5名のスタッフでしたが、現在では教授1名、助教1名、技術職員1名、大学院博士前期過程3名、卒業研究生4年次3名、3年次2名の計11名になりました。まだ研究室の実験設備等、十分整っていませんが、幸いにも保健学科共通実験室が2年前に新しく整備され、そちらをフル活用させていただいています。

#### 1. 教育

形態病理学講座では保健学科の必修科目として形態学と病理学を担当しています。形態学で、人体の肉眼的、組織学的構造について講義と解剖実

\* o-yasuka@jim.u-ryukyu.ac.jp

習、組織学実習を通して理解を図ります。病理学では講義や病理組織学実習により、疾病の原因、成り立ち、病態及び疾病により生じた臓器、組織、細胞の形態学変化と機能の変化の関連について学びます。また、検査技術コースの必修科目の病理組織細胞学では、組織の包埋や、薄切の方法、数種類の染色を実践しています。他にも病院実習や保健技術英語文献購読、病理特殊検査法などの科目を担当しています。

## 2. 診療

附属病院の病理部と連携して、細胞診断、組織診断、術中迅速病理診断等の診断業務に携わっています。

## 3. 研究紹介

### 1. 沖縄県の口腔がん と EBV 及び HPV 感染について

EBV 感染と悪性腫瘍との関連については、悪性リンパ腫や胃がんや鼻咽頭がんの発生に関与していることが知られています。沖縄県と本土での口腔扁平上皮がんにおける EBV と HPV の感染率の比較を行ったところ、沖縄県の口腔領域の扁平

上皮がんは本土の症例に比べて EBV と HPV の感染率が高く、腫瘍発生との関連が示唆されました。そこで、EBV 遺伝子や HPV 遺伝子を発現させ、宿主のどの遺伝子に作用し発がんに至るか解析を行っています。現在までの解析にて、ウイルス遺伝子の発現により、増殖能やアポトーシスの頻度に差がみられています。

### 2. 沖縄県の HHV-8 感染 と カポジ肉腫 の発生について

カポジ肉腫の発症にはヒトヘルペスウイルス 8 型 (HHV-8) が関与しています。沖縄県では古典型カポジ肉腫の発症頻度が高いことが知られています。古典型は高齢者に多く四肢に限局し、AIDS 関連型と異なり内臓病変はまれで、しかも自然退縮することがあります。この臨床像の違いが何故生じているかについてはよく分かっていません。我々は AIDS 関連型と古典型で K1 遺伝子に違いがあることを見出しました。現在、K1 遺伝子の違いが腫瘍の発生にどのような影響を与えるか検討するため、古典型 K1 遺伝子と AIDS 関連型 K1 遺伝子の形質転換能の違いを比較検討しています。